

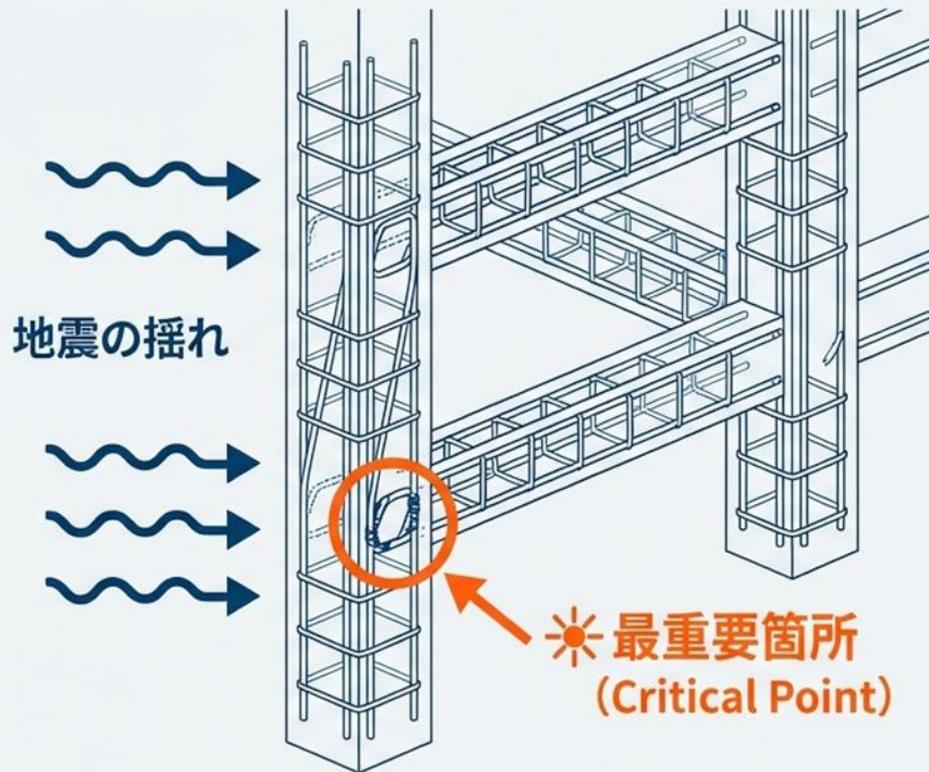
建築構造の信頼性を 革新する

せん断補強筋の溶接工法、次世代への刷新。
アーク溶接の限界を超え、フラッシュバット
溶接が実現する品質と効率の未来。

建物の生命線を守る「せん断補強筋」の重要性

「せん断補強筋（鉄筋）は、建築物の柱や梁に配置され、地震などの外力によって生じるせん断力に対抗する極めて重要な役割を担っています。

そのため、接合部には極めて高い強度と、施工品質の『絶対的な安定性』が求められます。



従来工法（アーク溶接）に潜む、品質と生産性のリスク

現在多く用いられているアーク溶接（CO2溶接等）では、以下の点が構造的な課題となっています。

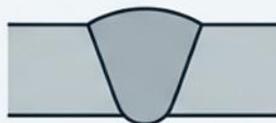
品質の不安定さ

作業者のスキルへの依存

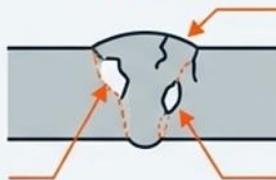
溶接品質が作業者の熟練度に大きく左右され、均一な品質管理が極めて困難。見えない内部欠陥のリスクも内包します。



高品質な溶接



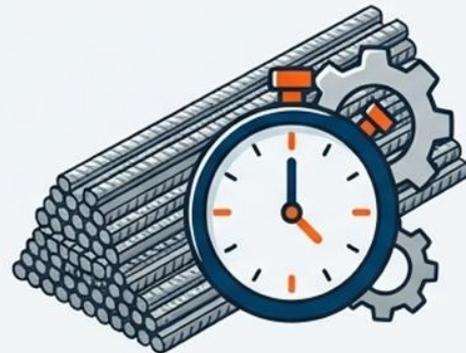
溶接不良



生産リードタイム

非効率な作業時間

溶接作業そのものに時間がかかり、プロジェクト全体の生産性向上を妨げるボトルネックとなっています。



その課題は、いわば「手書きの重要書類」を
「デジタル印刷」に切り替えることで解決できます。



解決策：フラッシュバット溶接による自動化・効率化への刷新

「手書き」の課題を根本から解決し、製品の付加価値を飛躍的に高める工法として、フラッシュバット溶接による自動化・効率化を提案します。



**続きはDLフォームを入力、送信のうえ
ダウンロードしてご確認ください！**